

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」三年 年間指導計画作成資料

【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。
例（書①読①）…書くこと1時間，読むこと1時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしている。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関心】 ……国語への関心・意欲・態度

【話聞】 ……話すこと・聞くこと

【書く】 ……書くこと

【読む】 ……読むこと

【伝国】 ……伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」三年上巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準		
		<学習指導要領との対応>				
4	1	<p>「どきん」 (読①) ■様子を思い浮かべながら読み、感じ取ったことが伝わるように、音読を工夫することができる。</p> <p>◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>①音読し、様子を考える。 ②擬音語などの表現効果について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p>	<p>【関心】楽しみながら、詩を読もうとしている。 【読む】様子や自分の思いが伝わるように、音読を工夫している。 【伝国】擬音・擬態など、様子を表す言葉があることに気付いている。</p>		
	2	<p>学級作り 「コロコロ・スピーチ」 (話聞②) ■相手意識をもって、楽しみながら自分のことを話すとともに、スピーチを聞き合うことを通して、人間関係を築くことができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ◎話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>			<p>①話しやすい題を考える。 ②ゲームのやり方に沿って、「スピーチゲーム」をする。</p>	<p>【関心】「スピーチゲーム」に関心をもち、楽しみながら、話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】伝えたいことが伝わるよう、相手を見たり、話し方や言葉遣いに注意したりして話している。 【話聞】話し手の意図をとらえながら聞いたり、質問したりしている。 【伝国】質問したり答えたりするときの言葉の使い方に気付いている。</p>
	2	<p>みんなで本を楽しもう 「三まいのおふだ」 (読②) ■物語の世界のおもしろさを知り、集めて選んだ本を、役割音読したり、感想や似ているところを話し合ったりすることができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>				

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	8	<p>1. ふしぎな物語を読もう 「つり橋わたれ」 (読⑧) ■場面の移り変わりをとらえながら、人物がどのように変わったかを読むことができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ◎読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)オ：必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①会話を基に、全体をとらえる。 ②行動描写を基に、人物の気持ちの変化を読み取る。 ③不思議な出来事が、どんなふうになり、どう終わったかをとらえ、話し合う。 ④他の物語から、不思議な出来事の始めと終わりを見つけ、伝え合う。</p>	<p>【関心】山びこが登場する場面やトッコの気持ちの変化に関心をもち、ファンタジーの世界を楽しみながら読み進めようとしている。 【読む】山の子供たちや、トッコと山びこの行動などを基に場面の様子がよく分かるように音読したり、不思議な世界の入り口と出口や人物の気持ちの変化を読み取り、考えたことを発表し合ったりしている。 【読む】不思議な出来事のある物語を読み、見つけたことを引用して伝えている。 【伝国】動きや様子を詳しく表す言葉に気付いている。</p>
	2	<p>言葉のきまり1 「うごきや様子をくわしく表す言葉」 (言①書①) ■連用修飾語の働きを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ◎伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①例文を基に、動きを詳しく表す言葉の働きや使い方を理解する。 ②例文を基に、動きの様子を表す言葉の働きや使い方を理解する。 ③動きや様子を詳しくする言葉を国語辞典で調べ、文作りに適切な使い方を確かめる。</p>	<p>【関心】詳しく表す言葉に関心をもち、使おうとしている。 【書く】連用修飾の文を書いて、適切に使っているか確かめたり直したりしている。 【伝国】連用修飾語の働きや使い方についてとらえ、適切に使っている。</p>
5	1	<p>漢字のへや1 「漢字の音読み・訓読み」 (言①) ■漢字の音読みと訓読みの意味や由来などについて知り、適切に使うことができる。</p> <p>◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、漢字の音読みや訓読みの意味や由来などについて理解する。 ②漢字を音読みしたり訓読みしたりする。</p>	<p>【関心】漢字の読み方や由来に対する関心を高め、漢字を使おうとしている。 【伝国】漢字の音読みや訓読みについて理解し、適切に使っている</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	2	読むために書く 「引用」 (書①読①) ■引用の仕方を理解することができる。 ◎書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①引用の意味やしかたをとらえる。 ②教師が準備した文章を用いて、引用部分に「」を付ける練習をする。 ③引用した部分に分かるように、簡単な文章を書く。	【関心】引用の意味やしかたに関心をもち、文章の中で使おうとしている。 【読む】引用の意味やしかた、文章中の引用部分をとらえている。 【書く】引用部分に分かるように、簡単な文章を書いている。 【伝国】引用することによって、考えなどを分かりやすく示せることに気付いている。
	1	新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②適正な文になっているか、確かめながら文を作る。	【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】三年に配当されている漢字を読み書きしている。
	2	「合図としるし」を読む前に 「にせてだます」 (読②) ■文章のまとまりを考えながら読むことで、文章全体の内容をとらえることができる。 ◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	①形式段落ごとに、それぞれどんなことが書かれているかをとらえる。 ②全文を、「始め」「中」「終わり」のまとまりに分ける。 ③「ぎたい」はいくつ書かれているか、また、その違いを読む。	【関心】動物が生きていくために獲得した特長に関心をもち、段落ごとのまとまりをとらえて読み進めようとしている。 【読む】段落ごとの要点をとらえ、三つのまとまりに分け、「ぎたい」にはどのような事例があり、どんな違いがあるのかを読み取っている。 【伝国】指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	11	<p>2. 合図とするしの事れいを書いてみよう 「合図とするし」 (読⑧書③) ■事例のまとまりや段落のつながりを確かめながら読み、事例をまとめる文章を書くことができる。</p> <p>○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)ウ：収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(2)イ：記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ○読(2)ウ：記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①本文を、三つの部分に分ける。 ②どんな合図とするしが出てきたか、事例をとらえる。 ③「中」のまとまりの書き方を確かめ、意味段落をとらえながら、「合図とするし」の文章全体の組み立てをとらえる。 ④身の回りの「合図とするし」を探したり、その仕組みを調べたりし、事例をまとめた文章を書いて、伝え合う。</p>	<p>【関心】合図とするしに関心をもち、それらを紹介する事例のつながりを読もうとしている。 【書く】身の回りにある合図とするしの題材を集め、合図とするしの事例をまとめる文章を書いて読み合っている。 【読む】合図とするしを紹介するための事例に注意しながら読み、それらの中心となる語や文や、つながりや説明のしかたなどをとらえている。 【読む】身の回りにある合図やしるしについて書かれた本などを読み、その仕組みなどの情報を集めている。 【伝国】指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。</p>
	4	<p>言葉のいずみ 1 「国語じてんの使い方」 (言④) ■国語辞典の構成や使い方、その便利さを理解し、国語辞典を使って言葉を調べることができる。</p> <p>○伝国ア(イ)：長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>	<p>①五十音順や言い切りの形などの国語辞典の仕組みや引き方、その便利さを理解する。 ②国語辞典を使って、言葉の意味を調べたり、文脈における意味の選択をしたりする。 ③知っている言葉を選び、国語辞典で調べる。</p>	<p>【関心】国語辞典に関心をもち、使おうとしている。 【伝国】漢字や仮名を用いて見出し語を示している国語辞典の仕組みや引き方をとらえ、適切に言葉の意味を調べている。 【伝国】「慣用句」も国語辞典で調べることができることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	1	漢字のへや2 「漢字の組み立て—部首の話①」 (言①) ■漢字の構成部分（へん・つくり）について知り、漢字の組み立てへの理解を深めることができる。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ◎伝国ウ(ウ)：漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。	①部首である「へん」と「つくり」といった漢字の構成部分について理解する。 ②例示以外の漢字について調べる。	【関心】漢字の組み立てに対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【伝国】漢字の意味と部首のもつ意味との関係をとらえ、漢字の構成を確かめている。
	2	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。
	5	書き方・まとめ方 「文章のまとまりと分かりやすさ」 (書⑤) ■段落の役割を理解し、自分の文章表現に生かすことができる。 ◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。	①二つの文章を読み比べて、分かりやすい文章はどちらか、理由を考える。 ②段落ごと改行することで、意味のまとまりをとらえながら読めることを理解する。 ③例文を、三つの段落に分ける。 ④横書きの場合の段落分けや、そのときの約束事確かめる。	【関心】分かりやすい文章の書き方に関心をもち、段落のまとまりに気を付けながら、文章を書こうとしている。 【書く】分かりやすい文章になるよう、段落ごとに改行し、まとまりに気を付けながら書いている。 【伝国】段落の意味や横書きの文章を書くときの約束事をとらえている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	10	<p>3. しょうかいしたいことを話そう 「わたし・ぼくの『すきなこと』『とく 意わざ』しょうかい」 (話聞⑩)</p> <p>■紹介することを決め、話の構成を考 え、場に応じた言葉遣いで発表するこ とができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：関心のあることなどから話題 を決め、必要な事柄について調べ、要点をメ モすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や 事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言 葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や 強弱、間の取り方などに注意したりして話す こと。 ○話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、 質問をしたり感想を述べたりすること。 ○話聞(2)ア：出来事の説明や調査の報告を したり、それらを聞いて意見を述べたりする こと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思っ たことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①自分が何を紹介するかを決 める。 ②カードにスピーチの材料を 書き、準備する。 ③カードを基に、話の組み立 てを考えながら、スピーチ原稿を まとめる。 ④グループで、スピーチの練習 をする。 ⑤スピーチ大会を開く。</p>	<p>【関心】友達に自分の好きなこ と、得意なことを伝えるために 必要な事柄を集め、原稿作りや 言葉遣い、話し方に気を付けて スピーチしようとしている。 【関心】友達の話をも自分の経験 や考えと比べながら聞き、意見 を述べようとしている。 【話聞】自分が紹介したい「好 きなこと」「得意技」の話題を 決めることができる。 【話聞】スピーチをするために 好きだったり得意だったりす ることとその理由を、「スピー チざいりょうカード」にまとめ ている。 【話聞】友達に分かりやすく伝 えるために、理由や例を挙げた り、聞き手を見て声の調子や速 さなどに注意したりして話し ている。 【話聞】話の中心に気を付けて 発表を聞き、質問したり感想を のべたりしている。 【伝国】質問したり答えたりす るときの言葉の使い方に気付 いている。</p>
	2	<p>言葉のきまり2 「文のかたとしゅうしょく語」 (書①言①)</p> <p>■四つの基本文型を理解し、それらを使 って、文を作るとともに、修飾語の働 きを理解することができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、より よい表現に書き直したりすること。 ◎伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、 文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、基本文型や修飾 語の働きをとらえる。 ②基本文型を使ったり、修飾語 の働きを考えたりしながら、文 を作ったり、文中で使ったりす る。</p>	<p>【関心】文の組み立てや言葉の 使い方に対する関心を高め、適 切に使おうとしている。 【書く】基本文型や修飾語を使 って、文作りをしている。 【伝国】基本文型や修飾語の働 きをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	1	<p>漢字の部屋3 「漢字の組み立て—部首の話②」 (言①) ■漢字の構成部分(かんむり・あし・たれ・にょう・かまえ)について知り、漢字の組み立てへの理解を深めることができる。</p> <p>○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>◎伝国ウ(ウ)：漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p>	<p>①部首である「かんむり」と「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」といった漢字の構成部分について理解する。</p> <p>②漢字の組み合わせゲームをする。</p>	<p>【関心】漢字の組み立てに対する関心を深め、適切に使おうとしている。</p> <p>【伝国】漢字の意味とその部首のもつ意味との関係をとらえ、漢字の構成を確かめている。</p>
7	1	<p>新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。</p> <p>◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。</p> <p>②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。</p> <p>③適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。</p> <p>【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。</p> <p>【伝国】三年で配当されている漢字を読み書きしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	11	<p>4. 読書を楽しもう 「あらしの夜に」 「おもしろさを語り合おう」 本と友達 読書の部屋 (読⑨話聞②)</p> <p>■おもしろさをとらえながら、作品を読み、読書を楽しむことができる。 ■本を読み、記録を残すことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ○話聞(2)ア：出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 ○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのことに気付くこと。 ◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。</p>	<p>①「いつ」「どこ」「登場人物」などの設定を確かめながら、物語を読む。 ②二人が仲良くなれたのは、いくつの偶然が重なったためかを読む。 ③二人の気持ちの変化と、題名の意味について考え、読み取ったことを生かして音読する。 ③「あらしの夜に」のおもしろいと思ったところを出し合う。 ④出し合ったおもしろさを分類する。 ⑤チームになって作品のおもしろさを交流し合い、クラスに報告する。 ⑥明るく朝、どんなことが起きたかを考える。 ⑦シリーズの物語を読む。 ⑧テーマに沿った本や関心のある本を選んで読み、読書の幅を広げる。 ⑨「読書の足あと」として、カードにまとめる。</p>	<p>【関心】「あらしの夜に」の好きなどころや心が引かれるところに着目しながら読むとともに、シリーズ作品ならではの読む楽しさの感想を述べ合ったり、自分の読書経験の中から紹介したい本を説明したりするなどの活動を通し、読書生活を楽しもうとしている。</p> <p>【話聞】おもしろいと思ったところを話題として取り出し、メモをしてグループ分けした上で、なぜおもしろいと思ったのかを話し合い、クラスに報告している。</p> <p>【読む】作品のおもしろさについて話し合い、一人一人感じ方が違っていることに気付いている。</p> <p>【読む】嵐の中の場面の様子や場面の移り変わり、やぎとおおかみの言動や性格、気持ちの変化について、叙述を基に想像しながら読んでいる。</p> <p>【読む】作品のおもしろさをとらえるために「あらしの夜に」の細かい点に注目しながら読み返したり、シリーズの物語を読み進めたりしている。</p> <p>【読む】目的に応じていろいろな本を選んで読み、心に残った言葉を引用したり感想をまとめたりしている。</p> <p>【読む】場面の様子や人物の気持ちが分かるように音読している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	2	<p>詩を味わおう 「うち知ってんねん」 「夕日がせなかをおしてくる」 (読②) ■様子などを想像しながら、工夫して音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①詩の内容や表現のしかたで、おもしろかったところを話し合う。 ②読み方を工夫して音読する。</p>	<p>【関心】内容や表現のおもしろさに関心をもちながら、詩を読もうとしている。 【読む】様子や自分の思いが伝わるように音読している。 【伝国】短詩形の表現としてとらえている。</p>
	4	<p>言葉のリズムを感じてみよう 「俳句」 (言④) ■俳句に親しみ、情景を思い浮かべたり、リズムを感じたりしながら音読することができる。</p> <p>◎伝国ア(ア)：易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。</p>	<p>①俳句を五・七・五のリズムを感じながら音読したり視写したりする。 ②俳句の詠まれた季節や情景について話し合い、様子を思い浮かべながら音読する。 ③気に入った俳句を選んで、リズムよく暗唱する。 ④どのような言葉や情景からどんな感想をもったかを出し合い、共通点や相違点を考える。</p>	<p>【関心】俳句に関心をもち、言葉のリズムを楽しみながら読もうとしている。 【伝国】俳句に込められた作者の思いや情景などを思い浮かべたり、音読したりして、言葉のリズムをとらえている</p>
	2	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直している。 【伝国】三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	5	<p>手紙を書こう 「あんないじょうを書こう」 (書⑤) ■伝えたいことを明らかにしながら、書式に合わせ、丁寧な言葉を使い、案内状を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(2)エ：目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①伝えたいことをメモにまとめる。 ②メモを基に、案内状を書く。 ③書いた案内状を読み返し、推敲する。</p>	<p>【関心】案内状の形式に対する関心を高めるとともに、手紙文のよさに気付いてその書き方を活用しようとしている。 【書く】相手意識や目的意識をもち、書こうとすることの中心を明確にしている。 【書く】形式に合わせて、敬体の文章で案内状を書いている。 【書く】書いた案内状を読み返し、よりよい表現に書き直している。 【伝国】相手を尊重する言葉遣いや、句読点の打ち方、段落のつけ方に注意している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	11	<p>5. 知ろう・つたえよう 「見てきたことを新聞にまとめよう」 (書⑩話聞①)</p> <p>■見たり聞いたりしてきたことを、新聞にまとめることができる。 ■必要な事柄についての要点をメモするとともに、伝えたいことの中心を明らかにしながら、読み手に分かりやすく伝わるよう工夫して書くことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ◎書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)イ：疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ○書(2)ウ：収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①何について伝える新聞を作るか、計画を立てる。 ②聞きたいことを考え、メモを作って取材する。 ③話を聞きながら、要点をメモする。 ④必要な情報を選んでメモを取ったり割り付けを考えたりする。 ⑤読み手を引きつける工夫をしながら、記事を書く。 ⑥作った新聞を、友達同士読み合い、よいところを伝え合う。</p>	<p>【関心】新聞作りに関心を持ち、見学してきた事柄が読み手に分かりやすく伝わるように工夫しながら書こうとしている。 【話聞】調査したいことや伝えたいことを、目的に合わせて、話し方に気を付けてインタビューや発表をしたり、大事なことを聞き取りメモに取ったりしている。 【書く】見聞きしてきたことを新聞にまとめるために、友達と相談し合ったり、記事や新聞のよいところを伝え合ったりしている。 【書く】見てきたことが分かりやすく伝わるよう、図表などを活用したり、書こうとすることの中心を明確にした文章を構成したりして記事を書いている。 【書く】書いた記事を読み返し、よりよい表現に書き直している。 【伝国】記事の形式、新聞の形式で考えたことや思ったことを表せることに気付いている。</p>
10	2	<p>言葉のいずみ2 「言葉のなかま分け」 (言②)</p> <p>■名詞、動詞、形容詞、形容動詞の違いに着目して、それらの性質や役割を理解することができる。</p> <p>○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>①例示された言葉を仲間分けし、それぞれの性質や役割をとらえる。 ②言い切りの形にできる言葉があることを知る。 ③言い切りの形にできる言葉を調べる。</p>	<p>【関心】品詞の性質や役割に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】ものの名前や動き、様子を表す言葉などを類別し、それらの性質や役割をとらえている。 【伝国】活用に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	漢字のへや4 「部首のへんか」 (言①) ■部首の変化を理解し、適切に使うことができる。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ◎伝国ウ(ウ)：漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。	①本文を読み、漢字の部首の意味とその形があまり変わらないものと変わるものについてとらえる。 ②漢字の部首をさがし、もとの意味を表す漢字と照合する。	【関心】漢字の部首に対する関心を深め、その変化を調べようとしている。 【伝国】漢字そのものの意味と、形が変化しないにかかわらず、部首がもっている意味との関係をとらえている。
	3	ローマ字 (言③) ■ローマ字五十音を知り、簡単な語の読み書きをすることができる。 ○伝国ウ(ア)：第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。	①ローマ字五十音の読み方を知る。 ②長音や促音などの表記のしかたについて理解する。 ③五十音表で確かめながら、簡単な言葉の読み書きをする。	【関心】ローマ字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】ローマ字で表記された言葉を読んだり書いたりしている。
	2	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりする。 【伝国】三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
-	(9)	<p>◆「夏の宿題」</p> <p>■登場人物の性格や気持ちの変化をとらえながら読むことができる。</p> <p>◎読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。</p> <p>○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①人物の性格や気持ちの変化を、叙述に基づいて読む。</p> <p>②「自転車」「朝顔」に対するそれぞれの人物の思いをつかむ。</p> <p>③読後の感想を出し合う。</p>	<p>【関心】京平やおっちゃんの性格や、あさがおが咲いている場面などの中から、心が引かれるところに着目して読もうとしている。</p> <p>【読む】京平の性格や気持ちの変化、おっちゃんの様子やあさがおが咲いている様子などを関係付けて読んでいる。</p> <p>【読む】読後の感想を発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。</p> <p>【伝国】指示語の使い方に気付いている。</p>
-	-	<p>◆「図書室で本をさがそう」</p> <p>■図書室を利用して、読みものを探したり必要な情報を得たりするために、本の分類や索引の使い方について理解することができる。</p> <p>◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。</p> <p>○読(2)イ：記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。</p> <p>○読(2)オ：必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p>	<p>①本の分類番号について知る。</p> <p>②目次や索引の使い方を知り、必要な情報を得る方法を知る。</p>	<p>【関心】楽しんだり調べたりするために読書範囲を広げ、いろいろな分野の本を幅広く読書しようとしている。</p> <p>【読む】楽しさを求めたり、必要な情報を得たりする目的に合わせて本を選ぼうとしている。</p>

配当月	時数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	「いきもの」 (読①) ■音読を工夫し、楽しみながら詩を読むことができる。 ◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	①音読し、様子を考える。 ②比喻などの表現効果について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。	【関心】楽しみながら、「いきもの」の詩を読もうとしている。 【読む】「いきもの」に描かれている様子が伝わるように音読を工夫している。
	2	「ネコのひげ」を読む前に「マンホールのふた」 (読②) ■問いの文や段落の要点をとらえ、大事なところはどこかを考えながら読むことができる。 ○読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	①問いの文や段落の要点をとらえる。 ②この文章が伝えたいことは何かをとらえる。	【関心】マンホールのふたに関心を持ち、その形がなぜ円いのかを読もうとしている。 【読む】問いの文や段落の要点をとらえることで、この文章が何を伝えたいのかや、大事なところを読み取っている。 【伝国】指示語の使い方に気付いている。
	6	1. 感想文を書こう 「ネコのひげ」 (読⑤書①) ■段落と段落の関係を考え、要点を押さえながら読み感想文を書くことができる。 ○書(1)ウ：書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(2)ウ：記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	①本文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなどを出し合う。 ②問いの文から、全文を三つの段落に分けて、その役割を考える。 ③「中」にある意味段落の要点をとらえる。 ④感想文を書いて交流し合い、見方や感じ方の違いをとらえる。	【関心】ネコのひげの仕組みや働きに関心を持ち、読み進めようとしている。 【書く】思ったことの原因や事例を挙げながら、感想文を書いている。 【読む】段落の要点をとらえ、段落と段落の関係を考えながら読んでいる。 【読む】「ネコのひげ」を読んで、引用などして書きまとめた文章の感想を交流し、お互いの理解を確かめ合っている。 【伝国】指示語や接続語の使い方を理解している。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	2	<p>言葉のきまり 1 「こそあど言葉」 (言①書①) ■指示語の働きが分かり、指示する内容を とらえることができるとともに、適切 に使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、より よい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思っ たことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするた めに必要な語句を増し、また、語句には性質 や役割の上で類別があることを理解するこ と。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との 意味のつながりに果たす役割を理解し、使う こと。</p>	<p>①「こそあど言葉」について知 る。 ②それぞれの指示語が、何を指 しているかを確認する。 ③例文を比べ、指示語による意 味の違いをとらえる。 ④指示語を使った文を書いて、 文中での使い方を確かめる。</p>	<p>【関心】指示語に対する関心を 高め、適切に使おうとしてい る。 【書く】適正文になっている か、確かめたり直したりしてい る。 【伝国】指示語が果たす役割に ついて理解し使っている。</p>
	1	<p>漢字の部屋 1 「漢字と送りがな」 (言①) ■漢字の送り仮名の変化による読み方 や意味の変化を理解することができる。</p> <p>○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、ま た、活用についての意識をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年 までに配当されている漢字を読むこと。ま た、当該学年の前の学年までに配当されてい る漢字を書き、文や文章の中で使うととも に、当該学年に配当されている漢字を漸次書 き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、送り仮名による 読み方や意味の違いをとらえ る。 ②送り仮名の活用の変化をと らえる。</p>	<p>【関心】漢字の送り仮名に対す る関心を高め、適切に使おうと している。 【伝国】送り仮名による読み方 や意味の使い分けを理解して いる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	7	2. 学級会で話し合おう 「クラスレクリエーションをしよう」 (話聞⑦) ■計画的に話し合い活動を進めることを通して、よりよい話し合いのしかたを考えることができる。	①学級会の流れを確かめる。 ②提案を受け、提案・理由をはっきりとさせて、話し合いの計画書を作る。 ③柱に沿って、話し合いをする。 ④話し合いを振り返り、よかったところなどを確認する。	【関心】 自分たちの活動について提案し、決定するための話し合い活動に関心を持ち、自分の意見をもちながら、話し合いに参加しようとしている。 【話聞】 話し合いの目的や方向性をとらえ、互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合っている。 【話聞】 クラスレクリエーションをするために、提案することとその理由をはっきりさせ、計画書に沿って、適切な言葉遣いで話している。 【話聞】 相手を見て話すなど話し方に注意したり、話を聞いて自分の考えを付け足したり、感想を述べたりしている。 【書く】 計画的な話し合いをするために提案することと、その理由をはっきりさせた計画書を作っている。 【伝国】 提案したり理由を述べたりする言葉を用いている。 【伝国】 指示語の役割を理解して用いている。
		○話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ◎話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ◎話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)イ：学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。		
	2	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	【関心】 漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】 送り仮名や活用に気を付けた適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。
	○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ◎伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。			

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	2	<p>言葉のいずみ 1 「言葉の意味を考える」 (書①言①) ■国語辞典を使って、言葉には多くの意味があることや似た意味の言葉、反対の意味の言葉について理解することができる。</p> <p>◎書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国ア(イ)：長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。</p>	<p>①それぞれの言葉にどんな意味があるかを、国語辞典を使って調べる。 ②「口」のもつ意味を調べていくつもある意味に合った文を書く。 ③書いた文について、適正なものになっているかどうか確かめる。 ④似た意味や反対の意味の言葉についてとらえる。</p>	<p>【関心】言葉の意味に関心を持ち、国語辞典を使って調べ、適切に使おうとしている。 【書く】言葉の意味を考え、ふさわしい使い方を考えながら書き、適正な表現になっているか確かめたり書き直したりしている。 【伝国】国語辞典を活用し、言葉には多くの意味があることをとらえ、適切に使っている。 【伝国】慣用表現や漢字と仮名を用いた表現に気付いている。</p>
	1	<p>漢字の部屋 2 「漢字のいろいろな意味」 (言①) ■漢字にはいろいろな意味があることをとらえ、意味の違いを調べたり、まとめたりすることができる。</p> <p>◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、漢字にはいろいろな意味があることや、もともとの意味とそこから広がった意味とがあることをとらえる。 ②国語辞典で言葉の意味の違いを調べ、カードにまとめる。</p>	<p>【関心】漢字にはいろいろな意味があることに興味を持ち、辞典を利用しながら適切に使おうとしている。 【伝国】漢字のもともとの意味やそこから広がった意味について国語辞典で調べ、まとめている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	4	<p>詩を書こう 「見たこと、感じたこと」 (書④) ■身近な自然やその変化に注目して、詩を書くことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)ア：身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、詩が目に見えるものだけでなく、聞こえてくる音やにおい、肌に感じることなど、想像したことを表現していることをとらえる。 ②「きれいだなあ！」と感じたことなどの詩を書く。 ③書いた詩を友達と読み合い、感想を交流し合う。</p>	<p>【関心】身近な自然やその変化に注目しながら、感じたことを詩に書こうとしている。 【書く】見たことや感じたことを表現するのにふさわしい場面や情景を詩に表している。 【書く】書いた詩を読み合い、よりよい表現に書き直したり、そのよさなどを交流し合ったりしている。 【伝国】名詞止めや比喻などの詩的な表現の工夫に気付いている。</p>
	7	<p>3. 物語をしようかいしよう 「モチモチの木」 (読⑦) ■人物の関係がどのように変化したかを読み、物語を一文で紹介することができる。</p> <p>○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(2)エ：紹介したい本を取り上げて説明すること。 ○伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①物語の流れをとらえ、出来事と人物の様子を読み取る。 ②人物の変化を読み取る。 ③中心人物が、どのようなきっかけで、どうなったかを、一文でまとめる。 ④同一作者の本を読み、一文でまとめて紹介し合う。</p>	<p>【関心】豆太の心や行動の変化に関心を持ち、読み進めようとしている。 【読む】「モチモチの木」の話や、他の斎藤隆介の本を読み、その内容を一文でまとめて紹介し合い、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 【読む】豆太の心や行動の変化とどんな出来事があったかを読んでいる。 【読む】豆太の心の変化や場面の移り変わりに注意して音読している。 【伝国】文中における修飾-被修飾の関係や、指示語の働きなどをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	1	新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ◎書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③適正な文になっているか確かめる。	【関心】 漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】 適正な文が書けたか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 三年で配当されている漢字を読み書きしている。
	2	自分の見方を持つ 「絵をくらべながら読んでみよう」 (読①話聞①) ■挿絵を比べ、物語の様子の伝わり方の違いを考えることができる。 ○話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(2)ウ：図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。 ◎読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、学習のねらいと挿絵の効果をとらえる。 ②どちらの挿絵を選ぶか、理由や根拠を挙げながら話し合う。	【関心】 「モチモチの木」の挿絵の使い方による効果の違いに関心をもち、比べながら読もうとしている。 【話聞】 二つあるうちのどちらの挿絵を選ぶか、理由や根拠を挙げながら話し合っている。 【読む】 挿絵と照合しながら、文章を読むとともに、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 【伝国】 挿絵の使い方にも言葉と同じように、伝える働きがあることに気付いている。
	3	読書を広げよう 「本のポップを作ろう」 (読①書②) ■本のいちばんよいと思うところをキャッチコピーで表したり、書き抜きをしたり、お薦めの言葉を書いたりすることができる。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)エ：紹介したい本を取り上げて説明すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、学習のねらいや手順をとらえる。 ②キャッチコピーを作ったり、書き抜いたり、お薦めの言葉を書いたりして、本のポップを作る。 ③お薦めの本を読んで、ポップを作った友達に感想を伝える。	【関心】 本のポップ作りに関心をもち、いろいろな本を読んだ中からお薦めの本を紹介しようとしている。 【書く】 お薦めしたい内容が明確になるように、事例として本文を書き抜くなど工夫して書いている。 【読む】 本のおもしろさなどをとらえて紹介するために、必要な部分を引用したり感想をまとめたりしている。 【伝国】 ポップという形態を、考えたことや思ったこと伝えるための手段としてとらえている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	1	本と友達 読書の部屋 (読①) ■読書を楽しむことができる。 ◎読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	①本文を読み、紹介された本のお薦めのところをとらえる。 ②読書を楽しむ。	【関心】読書に関心をもち、本を読み進めようとしている。 【読む】楽しんで読書をしている。
	6	4. 話を作ろう 「写真が動き出す」 (書⑥) ■場面の前後の出来事を想像して、物語を書くことができる。 ◎書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ◎書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)ア：身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。	①写真を見て、気付いたことを出し合う。 ②写真の前後を想像して出し合う。 ③例文を参考に、場面や人物設定などをし、物語を作る。 ④例示された写真から選んで、物語を作る。 ⑤できあがった物語を読み合い、よいところなどを伝え合う。	【関心】物語作りに関心をもち、創作活動を楽しもうとしている。 【書く】写真やその前後を想像し、「はじめ」「中」「終わり」の構成と段落の役割を意識しながら、読み手にその様子が伝わるような物語を作っている。 【書く】書こうとすることを明確にし、読み返したり読み合ったりして、よりよい表現に書き換えている。 【書く】心に残った表現や書き方のよさを伝え合っている。 【伝国】段落の始めや会話の部分などの改行部分に気を付けている。 【伝国】表現に際して、擬音・擬態などのオノマトペが活用できることを理解している。
1	4	言葉でつたえよう 「心をとどけよう、受け止めよう」 (話聞④) ■伝えたいことが相手に届くよう、上手に話したり聞いたりすることについて考えることができる。 ◎話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ○話聞(2)イ：学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。	①例示のやりとりを声に出して読み、気付いたことを話し合う。 ②どのように伝えたら、よりよい会話になるかを考え、言い換える。 ③言い換えた会話をペアで聞き合い、話し合う。 ④伝えたいことが相手に届くようにするためには、どのようなことに気を付ければよいか、学級全体で話し合う。	【関心】伝えたいことが相手に届くよう、上手に話したり聞いたりすることについて考えようとしている。 【話聞】会話を言い換えたり、会話の内容や言葉の抑揚などの違いを適切な言葉遣いで話し合ったりしながら、学級全体のこととして、よりよい伝え方について考え、話し合っている。 【伝国】言葉による伝え合いの、よりよいあり方に気付いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	2	<p>言葉のきまり2「文のおしまいの表げん」 (言①書①) ■文末表現（推量）による意味の違いを理解することができる。</p> <p>○書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>①例文を読み、文末表現による意味の違いをとらえる。 ②文末表現をよりどころに、だれのどんな気持ちかをとらえる。 ③文末表現を選び、表す気持ちの違いを考える。 ④文末表現を考えながら文を作る。</p>	<p>【関心】文末表現による意味の違いに関心をもち、適切に使うとしている。 【書く】書いた文を読み返し、敬体・常体の違いを確かめたり、間違いを正したりしている。 【伝国】文末表現による、表す意味の違いをとらえている。</p>
	1	<p>漢字の部屋3 「漢字のでき方」 (言①) ■意味と音とを組み合わせた漢字のでき方や、組み立てについての理解を深めることができる。</p> <p>○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ◎伝国ウ(ウ)：漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。</p>	<p>①既習の象形文字や形声文字などについての、漢字のでき方や仕組みをとらえる。 ②意味と音とを組み合わせた漢字のでき方や仕組みをとらえ、文作りをする。</p>	<p>【関心】漢字のでき方や仕組みについて関心をもち、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。 【伝国】漢字のでき方や仕組みについての理解を深め、共通する部分をもつ漢字を集めて、文を作っている。</p>
	8	<p>5. 分類して整理し、説明しよう 「冬眠する動物たち」 (読⑧) ■筆者が注目していることを、段落のつながりから読むとともに、ある視点を立てて分類し、冬眠の様子を説明することができる。</p> <p>◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ◎読(1)エ：目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 ◎読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①どの段落にどんな動物が出てきたかを確認し、段落の役割をとらえる。 ②筆者の、冬眠する動物たちに対する分類のしかたを確認する。 ③冬眠時のえさや体温について、表にまとめる。 ④表を基に、分類の見方を明らかにして、冬眠の様子を伝え合う。</p>	<p>【関心】動物たちの冬眠に関心をもち、段落のつながりや分類のしかたをとらえて、読み進めようとしている。 【読む】動物たちの冬眠のしかたに対する筆者の見方（分類のしかた）をとらえ、段落相互の関係を整理しながら読んでいく。 【読む】見方を変えて分類することにより、一人一人の分け方に違いが生じてくることに気付いている。 【伝国】指示語や接続語の役割を理解している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	2	<p>言葉で遊ぼう 「言葉のおもしろさを楽しもう」 (書①言①) ■詩や言葉遊びを通して、語句の響きや語感を楽しむことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)：表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 ○伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 ○伝国イ(キ)：修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。</p>	<p>①詩の中の言葉の意味を考え、詩のおもしろさをとらえる。 ②「意味のかわる文」や「意味のかくれた文」を書き、確かめ合う。</p>	<p>【関心】詩のおもしろさや言葉遊びに関心をもち、楽しみながら学習しようとしている。 【書く】意味のかわる文や意味のかくれた文を考えて作り、表現を確かめたり直したりしている。 【伝国】表現に際しての語感や言葉の使い方に気付いたり、表現を理解するために調べ、必要な語句を増やしたりしている。 【伝国】読点の打ち方によって、修飾・被修飾の関係が変化していることに気付いている。</p>
	2	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】送り仮名や活用に気を付けた適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
2	4	<p>書き方・まとめ方 「考えを広げよう、まとめよう」 (書④) ■関心のある事柄について連想していくことを通して、考えを広げたり、集めた情報を分類して整理したりすることができる。</p> <p>○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①思い出したことをつないで、考えを広げていく方法を知る。 ②思い出したことや考えたことなどを、つなげて図式化する。 ③事柄を整理して、考えをまとめていく方法をとらえる。 ④思いついたことをカードに書き、分類して整理する。</p>	<p>【関心】ある事柄のイメージを広げたり、分類して整理しようとしている。 【書く】考えの広げ方や整理のしかたをとらえている。 【伝国】考えたことの示し方とその効果に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	9	<p>6. 調べたことをほうこくしよう 「遊びをくらべよう」 (書⑦話聞②) ■取材を通して分かったことを、中心をはっきりとさせながら、段落分けをし、報告文を書くことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ○話聞(1)イ：相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。 ○話聞(1)エ：話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 ○書(1)ア：関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 ○書(1)イ：文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○書(1)エ：文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。 ○書(2)イ：疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ○書(2)ウ：収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 ○伝国イ(エ)：句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。</p>	<p>①比べることを探し、分類して決める。 ②調べる方法を決め、取材の準備をする。 ③大事なことはメモを取りながら取材をする。 ④取材したことを整理する。 ⑤遊びを比べて、気付いたことを出し合ったり、表にまとめたりする。 ⑥表を基に、報告文を書く。 ⑦報告文を読み合い、感想を交流し合う。</p>	<p>【関心】調べたい遊びに関心を持ち取材したことを整理して報告文にまとめようとしている。 【話聞】取材に際して、報告に必要な事柄や、話の要点をメモしている。 【話聞】相手を見ながら丁寧な言葉遣いで話したり、話の中心に気を付けて聞き、詳しく知りたいことを質問したりしている。 【書く】取材で調べたことを整理して、報告することの中心を明らかにするとともに、事例や理由を挙げ、「はじめ」「中」「終わり」の構成や、段落の役割に気を付けながら敬体・常体に気を付けて報告するための文章を書いている。 【書く】取材してきたことを資料として効果的に使いながらまとめている。 【書く】他のグループの報告文を読み合い、感想を述べ合ったり、読む人にはっきり伝わるよう確認したりしている。 【伝国】段落の付け方を理解している。 【伝国】指示語・接続語の使い方理解し、使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	3	言葉のいずみ2 「慣用句」 (言①書②) ■慣用句についての知識をもち、言葉の由来や語感に対してのとらえ方を豊かにすることができる。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 ◎伝国ア(イ)：長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ◎伝国イ(カ)：表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。	①本文を読み、慣用句について知る。 ②国語辞典で、慣用句の意味を調べる。 ③慣用句を集め、短文を作り、慣用句カードを作る。 ④慣用句を適切に使った短文になっているか確かめる。	【関心】 慣用句に対する関心をもち、調べたりまとめたりしようとしている。 【書く】 慣用句の意味を正確に理解した短文が書けたか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 慣用句の意味やその使い方に対する感覚などに意識を向けている。
	1	漢字の部屋4 「同じ音の漢字・同じ訓の漢字」 (言①) ■同じ訓読みや音読みの漢字の意味による使い分けをすることができる。 ◎伝国イ(イ)：漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、同じ訓読みの漢字についてとらえる。 ②同じ音読みの漢字についてとらえる。	【関心】 漢字の訓読みや音読みに関心をもち、適切に使おうとしている。 【伝国】 読み方や意味による漢字の使い分けを理解し、使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	12	7. おもしろさをくらべよう 「わにのおじいさんのたから物」 (読①話聞①) ■物語のおもしろさから問いを作り、それを基に読み進めることができる。 ○話聞(1)オ：互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 ○読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ○読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○読(1)カ：目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①全文を読んで面白さを出し合い、グループ分けすることで分類する。 ②それぞれの面白さから生まれた問いを基に、物語を読み進める。 ③他の作品とのおもしろさの相違点を考えて、説明し合ったり、おにが出でくる物語を読んだりする。	【関心】 「わにのおじいさんのたから物」のおもしろさに気づき、問いをもちながら読み進めようとしている。 【話聞】 どんなところがおもしろいのかを挙げて感想を述べ合って、共通点・相違点を確かめたり、他の物語と比べて説明したりしている。 【書く】 おもしろさを感じた理由や事例を書き出している。 【読む】 場面の様子や人物の言動などの叙述を基に想像しながら読むとともに、導き出した問いに沿って読み深めている。 【読む】 おもしろさの似ているところや違うところを考えて、他の作品を読んでいる。 【伝国】 それぞれが注目したおもしろさをとらえ、作品のもつ豊かさに気付いている。 【伝国】 とらえ方によって「たから物」という言葉に対する意味付けが変わっていることに気付いている。
		「ローマ字」 (言①) ■ローマ字表記の固有名詞を読んだり書いたりすることができる。 ○伝国ウ(ア)：日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。	①ローマ字の大文字と小文字の表記のしかたについて理解する。 ②身の回りの固有名詞をローマ字で書いたり読んだりする。	【関心】 ローマ字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】 ローマ字で表記されたものを読んだり書いたりしている。
		新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書②) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)オ：文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 伝国イ(ウ)：送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。○伝国ウ(イ)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、適正な文になっているか確かめながら文を作る。	【関心】 漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】 送り仮名や活用に気を付けた適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 三年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	2	これからのあなたへ 「なにかをひとつ」 (読②) ■作者の思いを想像しながら音読することができる。 ◎読(1)ア：内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①表現から読み取った作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。	【関心】作者の思いを想像し、自分の考えをもちながら読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】短詩形による言葉の表現効果に気付いている。
-	(9)	◆「ミラクルミルク」 ■段落ごとの要点をとらえ、段落と段落との関係をつかむことができる。 ■本文を読んで考えたことを、その理由を含めて発表することができる。 ■身の回りにある「ミラクル」について調べることができる。 ◎読(1)イ：目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 ○書(1)ウ：書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 ○伝国イ(ク)：指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	①段落ごとの要点をとらえる。 ②段落のつながり方を考え、整理する。 ③本文を読んで驚いたことをまとめて発表し合う。 ④身の回りの「ミラクル」を探し、調べて書きまとめる。	【関心】ミルクの変身の様子をとらえ、様々な変身に興味をもって読もうとしている。 【読む】まとめごとの要点と段落相互の関係を考えながらミルクの変身の様子をとらえて読んでいる。 【書く】内容に注目しながら読み、驚いたこととその理由をまとめている。 【伝国】指示語や接続語の用いられ方に気付いている。
-	(9)	◆「わたしたち手で話します」 ■読みものに関心をもって読み、感想を出し合うことができる。 ○読(1)ウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 ◎読(1)オ：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	①文章全体を読んで、感じたことを発表し合う。 ②好きな場面を登場人物になりきって音読する。 ③手話に関心を持ち、関連する本や資料を読む。	【関心】自分たちが知らない生活の世界にあっても共通点があることに着目して読もうとしている。 【読む】リーザとトーマスたちとの交流の中の印象的な表現や内容に注目して読み、思ったことを発表し合っている。 【伝国】音声による言葉以外にも、伝達の手段があることに気付いている。

※215時間中、202時間を各単元に配当。残る13時間は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」など、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

領域	話・聞	書	読	伝国	合計
時数	30	71	72	29	202